

TOP-Q内容と評価法

問診2項目 観察3点

① 時事計算・誕生日記憶:

ex. 6年後の東京オリンピックの時は何歳?

50年前の東京オリンピックの時は何歳?

誕生日はいつ?

全て正解時のみ ○

いずれか1つ失敗 ×

② キツネ・ハト 模倣: いずれか1つ失敗 ×

両方とも失敗 ××

TOP-Q 得点 = ×数の個数の合計
(正常0点~3点 満点)

判定

TOP-Q 1点 (×数 1つ): MCI以上の可能性

TOP-Q 2点以上(×数 2個以上):

中等度以上の認知症の可能性

振り向き徴候

あり: 認知症の可能性が強い

ハンド・バレー徴候

あり: 血管性認知症?

回内・回外運動

異常: DLBのパーキンソニズム?

実施上での留意事項

- ① 被験者の**注意をそらす言葉を意図的に入れ、患者**
にテストを意識させない。

始める時: **元気で長生きをしなければね・・・!**

両手を動かす時: **深呼吸をしよう! 肩痛くないですか!**

筋肉が柔らかいですね!

など

- ② 時事計算の**足し算は、5~9年後**に起こる事象が
望ましい(定期的な御祭り、孫の成人式etc. 何でもOK)。
とりあえず、6年後の東京オリンピック

- ③ MMSEは実施した場合のみご記入。サポート医、2次・3次
紹介先施設では、TOP-Qに併せてMMSEを実施してください。

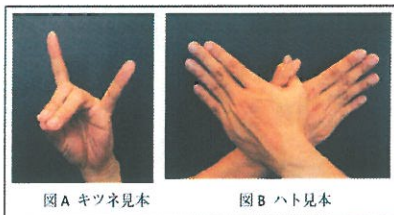
- ④ 山口式キツネ・ハト模倣テストでは

「キツネをつくって下さい」、「ハトをつくって下さい」などの
言葉の誘導はしない。

「よく見て同じ形を作ってください!」とのみ言って

左手でキツネを無言で10秒、両手でハトを無言で10秒提示 のみ

成功



図A キツネ見本

図B ハト見本

失敗例



図C 手掌・手背パターンで
すが、形が違うので×



図D 手掌・手背パターン



図E 手掌・手背パターン



図F 把握パターン